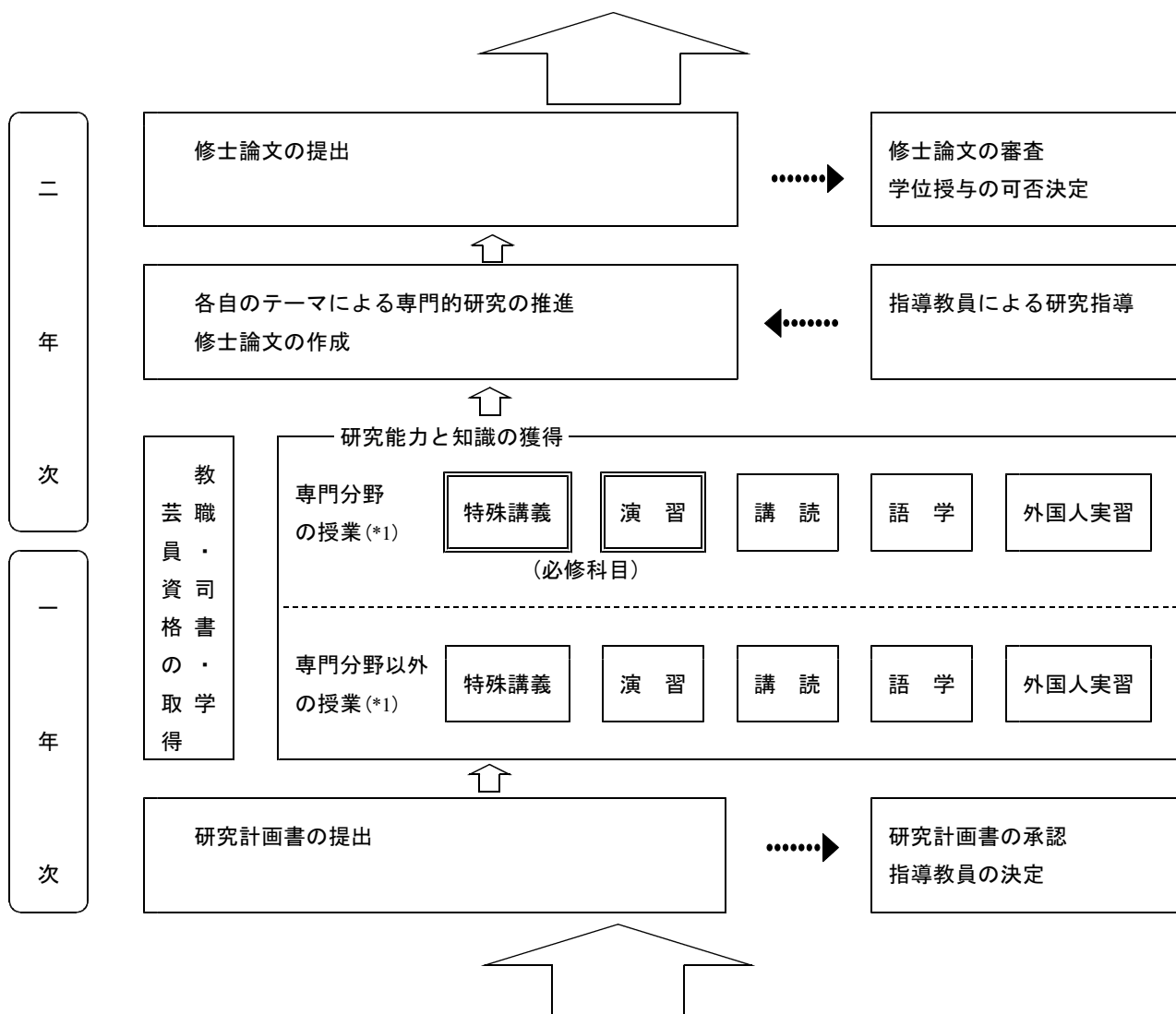


京都大学 大学院文学研究科 修士課程カリキュラム

(東洋文献文化学・西洋文献文化学・思想文化学・歴史文化学・行動文化学・現代文化学)

目 標	<p>(1) 哲学・歴史学・文学・行動科学のそれぞれの専門分野において、高度な知識に基づく研究能力と、高度な専門性を必要とする職業に従事するための能力を身につけている。</p> <p>(2) それぞれの専門分野において、原典や一次資料の分析に基づいてオリジナリティを有する研究を進める能力を身につけている。</p> <p>(3) 専門家としての責任感と倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている。</p> <p>(4) 研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけている。</p>
--------	---



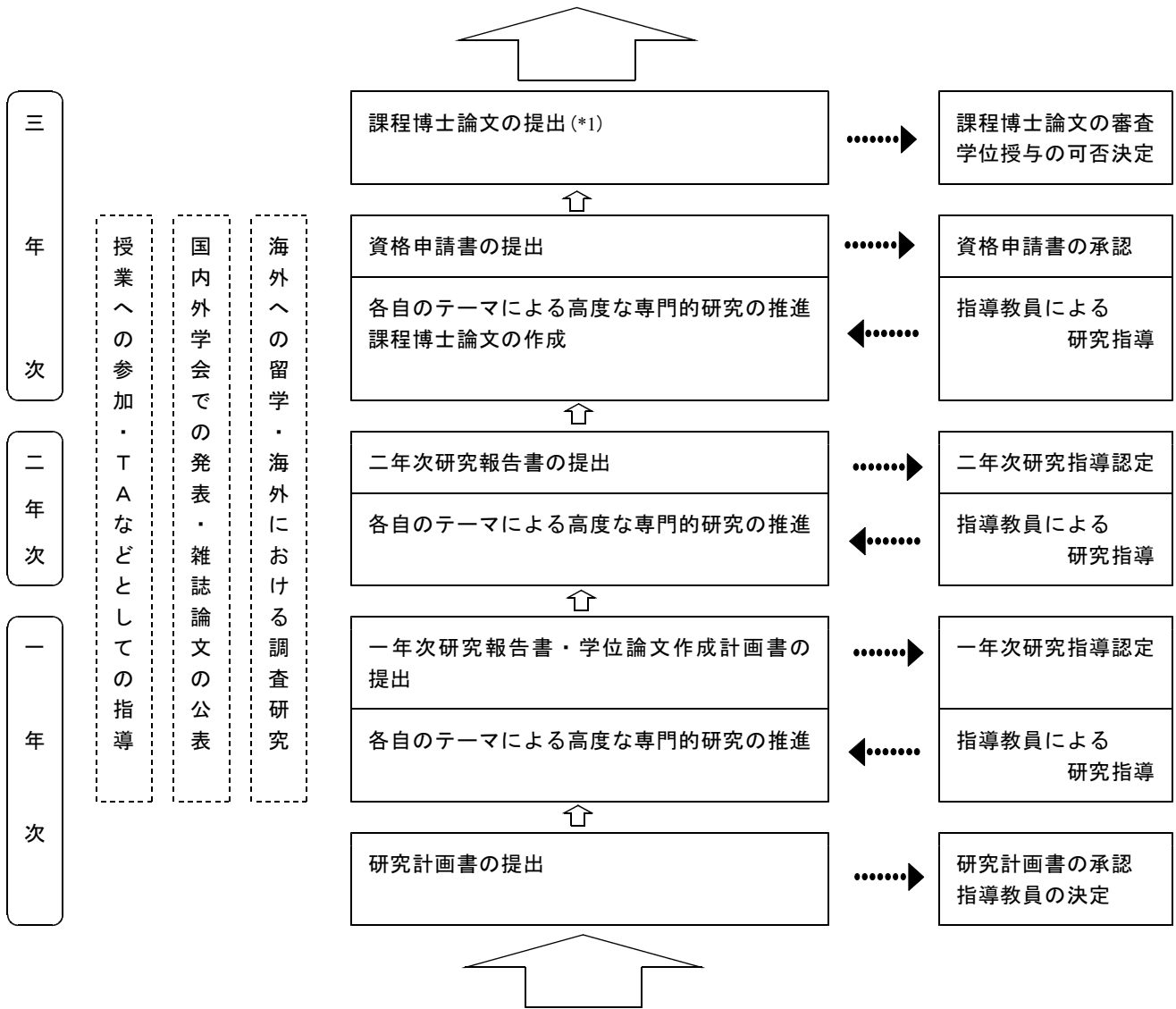
入 学 の 要 件	<p>(1) 志望分野に関する専門的知識を有しているとともに、人文学全般にわたって広い知識をもっている。</p> <p>(2) 志望分野において自らが主体的に問題を発見し、原典や一次資料の適切な分析に基づいてそれを解決する能力をもっている。</p> <p>(3) 将来国際的な場でも活動しうるだけの外国語能力の基礎を具えている。</p>
-----------------------	--

(\*1) 専修ごとに開講科目の種別は異なり、また必修科目の単位数も異なる。

京都大学 大学院文学研究科 博士後期課程カリキュラム

(東洋文献文化学・西洋文献文化学・思想文化学・歴史文化学・行動文化学・現代文化学)

目    標	(1) 哲学・歴史学・文学・行動科学のそれぞれの専門分野において、専門的研究者として自立できる研究能力と、指導的な高度専門職業人としての能力を身につけている。 (2) それぞれの専門分野において、原典や一次資料の高度な分析に基づいてオリジナリティの高い研究を進めるとともに、研究の成果と学術的意義を適切に把握する能力を身につけている。 (3) 専門家としての強い責任感と高い倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけている。 (4) 研究成果を世界に向けて積極的に発信するとともに、国際的な連携のもとで研究を推進する能力を身につけている。
--------------------	--



進 学 の 要 編 件 入	(1) 志望分野に関する深い専門的知識を有しているとともに、人文学の研究を通じて学術の高度化に寄与する能力をもっている。 (2) 志望分野において、先駆的な研究課題を自ら設定することができ、原典や一次資料の精緻な分析に基づいて、課題を解決する能力をもっている。 (3) 日本語、外国語によって、研究成果を国内外に効果的に発信するための語学能力を具えている。
---------------------------------	--

(\*1) 在学中に学位論文を提出せずに研究指導認定を受ける者は、三年次研究報告書を提出して、研究指導認定退学する。退学後3年以内であれば課程博士論文を提出することができる。

## 5. 授業及び論文関係

### (1) 文学研究科の授業、研究指導及び学修方法に関する申合せ事項

昭和 51 年 12 月 9 日教授会決定

平成 16 年 3 月 22 日改正

1. (1) 各学生について、指導教授のほかに、研究科を担当する本学の教員のうちから、指導教員若干名を定める。  
(2) 当該専修の教授が欠員又は事故のある場合は、研究科会議の議を経て、指導教員の 1 名が指導教授の任務を代行することがある。
2. 学生は、学修及び研究の指導を受けるために、履修及び研究の計画を定め、所定の期日までにこれを提出しなければならない。
3. 修士課程の学生に必要な 30 単位のうち、各専修に属する必修科目の単位は、別表に掲げるとおりとし、その他の単位は、自由選択とすることができる。
4. 博士後期課程の学生は、研究指導を受けて、毎学年、演習などを履修し、学年末に研究報告書を提出しなければならない。

### 大学院修士課程単位表

	必修		自由選択	合計	備考
	特殊講義	演習			
国語学国文学専修	12		18	30	
中国語学中国文学専修	8	8	14	30	
中国哲学史専修	16		14	30	
インド古典学専修	16		14	30	
仏教学専修	8	8	14	30	
西洋古典学専修	12		18	30	
スラブ語学スラブ文学専修	12		18	30	
ドイツ語学ドイツ文学専修	16		14	30	
英語学英米文学専修	8	12	10	30	
フランス語学フランス文学専修	8	8	14	30	
イタリア語学イタリア文学専修	8	8	14	30	

	必修		自由選択	合計	備考
	特殊講義	演習			
哲学専修	16		14	30	
西洋哲学史(古代・中世・近世)専修	16		14	30	
日本哲学史専修	16		14	30	
倫理学専修	16		14	30	
宗教学専修	16		14	30	
キリスト教専修	16		14	30	
美学美術史学専修	4	8	18	30	
日本史学専修	12		18	30	
東洋史学専修	12		18	30	
西南アジア史学専修	12		18	30	
西洋史学専修	12		18	30	
考古学専修	12		18	30	
心理学専修	8	8	14	30	
言語学専修	8	12	10	30	
社会学専修	8	12	10	30	
地理学専修	8	8	14	30	
科学哲学科学史専修	8	8	14	30	
情報・史料学専修	8	8	14	30	
二十世紀学専修	8	8	14	30	
現代史学専修	8	8	14	30	

## (2) 履修登録について

### ●文学研究科科目を履修する場合（KULASIS での履修登録）

文学研究科科目を履修するには、KULASIS での履修登録が必要となる。履修登録をしていない授業科目は、受講し試験（筆記、レポート等）を受けても単位認定がされないので、必ず期間内に KULASIS に登録すること。

	前 期 (前期科目・通年科目・修士論文)	後 期 (後期科目)
履修登録ページ公開日	4月4日(月)	9月23日(金)
履修登録期間	4月15日(金)～4月19日(火)	10月14日(金)～10月18日(火)
履修登録確認・修正期間	4月22日(金)～4月25日(月)	10月21日(金)～10月24日(月)
履修登録確認表開示期間	4月28日(木)～5月7日(土)	10月27日(木)～11月6日(日)

※集中講義の履修登録については、別途6月上旬頃に掲示で案内する。

### ●文学部科目を履修する場合（履修届での履修登録）

文学部科目の登録は「履修届」を提出期間内に文学部教務掛に提出すること。（ただし、学部科目の単位は、修了に必要な単位として認められない。）

### ●他研究科科目を履修する場合（他研究科聴講願での履修登録）

他研究科科目の登録は、各研究科で異なるため、掲示に注意すること。

### ●全学共通科目を履修する場合（KULASIS での履修登録）

全学共通科目の履修については、「全学共通科目履修登録について」の掲示に注意すること。（ただし、全学共通科目の単位は、修了に必要な単位として認められない。）

### ●平成27年度以前に入学した学生を対象としたカリキュラムが適用される学生が、文学研究科・文学部が開講する専門科目の語学を履修し、単位を修得した場合には、シラバス記載単位数の2分の1が修了・卒業に必要な単位として算入される。

### (3) 試験・成績について

#### 成績評価基準

文学研究科専門科目における成績評価は100点満点とし、評価基準は60点以上を合格、60点未満は不合格とする。また評語は以下のとおりとする。

##### 【平成27年度以降入学者】

90点以上を「A+」、80点～89点を「A」、70点～79点を「B」、61点～69点を「C」、60点を「D」、59点以下を「F」とする。

##### 【平成26年度以前入学者】

80点以上を「優」、70点～79点を「良」、60点～69点を「可」、59点以下を「不可」とする。

#### 試験における不正行為の取扱いについて

受験に際し自己または他人のために不正行為をした者の当該期の科目及び当該年度の通年科目の成績は、すべて無効とする。

#### 成績の異議申立について

当該期の成績について、次の場合に限り異議を申し立てることができる。

- ① 採点の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの
- ② シラバス等により周知している成績評価の方法等から、明らかに疑義があるもの

(申立の方法等)

成績開示初日から1週間以内※に、成績表を添えて教務掛窓口へ申し出ること。申立期間を過ぎたものは受け付けない。なお、担当教員に直接異議を申し出ることにはできない。

申し立て内容については、文学研究科・文学部において確認し、上記の①又は②に該当しないと判断された場合、対象外とする。

おって、措置内容については、申し立てから原則として2週間以内に通知する。

※詳細な日程は、KULASIS及び掲示にて周知。

## (4) 修士論文の提出について

今年度の大学院修士課程修了希望者は、下記により論文題目届及び論文を提出すること。

なお、前年度に論文題目届及び論文を提出した後、修了を延期した者も今年度改めて論文題目届・論文とも提出すること。

## 記

論文題目	<p><b>提出期間：文学部・文学研究科行事予定表のとおり</b></p> <p>文学部・文学研究科 HP に掲載の論文題目届用紙に論文題目その他必要事項を記入のうえ、指導教員の検印を受けて教務掛へ提出後、メールを送信すること。          なお、論文題目は原則として、パソコン等で作成すること。(貼付可。)</p>										
論文	<p><b>提出期間：文学部・文学研究科行事予定表のとおり</b></p> <p>論文の表紙には、表紙ラベルに題目・入学年・専修・氏名等を記入して貼付し、教務掛へ提出すること。</p>										
注意事項	論文題目届・論文とも締め切り後は受理しない。										
書式	<p>論文は原則として日本語とする。          但し、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ドイツ語学ドイツ文学，英語学英米文学，フランス語学フランス文学専修学生はそれぞれの言語で書くものとする。</li> <li>その他の専修の学生も専修によって認められた場合には、日本語以外の言語で書いてもよい。</li> </ol>										
用紙枚数	<p><b>和文の場合</b></p> <p>400字詰原稿用紙に換算して、</p> <table> <tr> <td>文献文化学専攻</td> <td>50枚以内</td> </tr> <tr> <td>思想文化学専攻</td> <td>100枚以内</td> </tr> <tr> <td>歴史文化学専攻</td> <td>100枚以内</td> </tr> <tr> <td>行動文化学専攻</td> <td>100枚以内</td> </tr> <tr> <td>現代文化学専攻</td> <td>100枚以内</td> </tr> </table> <p>但し、中国哲学史，インド古典学，仏教学の各専修は100枚以内とする。          なお、歴史文化学専攻学生は別に400字詰原稿用紙5枚分に相当する論文要旨を本文の前に綴じ込むこと。</p> <p><b>欧文の場合</b></p> <p>A4判用紙に1ページ25行程度で50ページ以内とする。          なお、「外国語」で書いた論文には必ず和文の要旨を添付すること。</p>	文献文化学専攻	50枚以内	思想文化学専攻	100枚以内	歴史文化学専攻	100枚以内	行動文化学専攻	100枚以内	現代文化学専攻	100枚以内
文献文化学専攻	50枚以内										
思想文化学専攻	100枚以内										
歴史文化学専攻	100枚以内										
行動文化学専攻	100枚以内										
現代文化学専攻	100枚以内										
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>修士論文には黒表紙をつけ仮製本して提出すること。              論文の提出期限は厳守し、提出後の誤字・脱字の訂正、プリントアウトの欠損などが無いように十分な点検をおこなうこと。  <u>パソコン使用の場合、ハードディスクやUSBの異常、または機器の故障を理由とした提出延期や不完全な形での提出は認めない。</u></li> <li>論文題目届提出後は原則として題目の変更は認めない。止むを得ず変更する場合は、教務掛交付の「修士論文題目変更届」（所定用紙）に指導教員の検印を得て教務掛へ届け出ること。              提出された論文題目は、学位記データに使用される。</li> <li>論文題目届を提出した者は修了予定者として扱う。その後、事情により留年することになった者は、必ず教務掛交付の「論文提出取止届」に指導教員の検印を受けて提出すること。</li> <li><u>修士論文は口頭試問の前に限り撤回することができる。</u></li> <li>修士論文は返却しない。審査終了後、本研究科で製本し文学研究科図書館で保管する。従って各自「写し」をとっておくことが望ましい。</li> </ol>										

## (5) 京都大学大学院文学研究科課程博士論文提出の手続

(全体の流れ)

博士後期 1 年次	4 月	「研究計画書」を提出，希望する指導教員 3 名を届けでる。
	3 月	「論文作成計画書」および「研究報告書」を提出し，第 1 年次研究指導認定を受ける。
博士後期 2 年次	4 月	研究題目・学修および研究計画届を提出。
	3 月	「研究報告書」を提出，第 2 年次研究指導認定を受ける。
博士後期 3 年次	4 月	研究題目・学修および研究計画届を提出。
	7 月	「資格申請書」を提出，承認されれば「博士論文提出資格」を得る。
	12 月	「課程博士論文」を提出。
	1 月	「研究報告書」を提出。

※「論文作成計画書」、「研究報告書」等の表紙は文学部・文学研究科HPにあるので各自ダウンロードすること。

(説明)

### 1. 研究計画書

博士後期課程全体を通じての研究主題・修士論文までの研究実績との関連性・研究の具体的計画を年度をおったかたちで 400 字詰原稿用紙 5 枚程度の分量にまとめて説明し，第 1 年次の 4 月に提出する。また希望する指導教員 3 名を選んで申請する。指導教員は「研究計画書」を通覧し，必要に応じて，指導教員の選定を含めた補足・変更を求め，主任指導教員 1 名を選ぶ。

### 2. 博士論文指導

博士論文指導の時間を定期的に設けるので，必ず出席すること。

### 3. 論文作成計画書

第 1 年次の 3 月に，

- (1) 論文の主題
- (2) 現在までの研究状況
- (3) 今後の進展の見通し
- (4) 自己の研究の国内外における位置づけ

以上につき，400 字詰原稿用紙で 10 枚程度の分量にまとめて提出する。執筆にあたっては実際にどのような論文を書こうとしているのか，どのように研究をすすめるのか，その研究によりどのような点が明らかにされるのかが具体的にわかるよう，明晰に記述しなくてはならない。

指導教員は，計画書の内容について検討し，不備と認めた場合に補足・変更を求める。



提出後に止むをえず主題変更・修正をおこなう必要が出てきた際は、ただちに主任指導教員に届けでること。

#### 4. 各年次研究報告書

- (1) 当初の研究計画および論文作成計画に沿った、独立の研究論文としての実質をそなえたものを、第1・2年次末に提出する。400字詰50枚程度のものを基準にする。審査を経て学会誌に掲載された論文の抜刷などでもかまわない。
- (2) 指導教員は、(1)の研究報告書の内容が不備と認めた場合には翌年度6月末までに書き直しを求め、改めて研究指導認定を行う。
- (3) 1年次または2年次に研究報告書未提出などの理由により研究指導認定を受けることが出来なかったものは、翌年度以降に所定の研究報告書を提出し、各年次の研究指導認定を受けなければならない。なおその際、複数年次の研究報告書を同一年度に提出することは出来ない。
- (4) 3年次については次のように取り扱う
  - ・在学中に課程博士論文を完成し、提出した者は学位論文提出の際に作成した「論文要旨」を研究報告として提出すること。
  - ・在学中に学位論文を提出せずに研究指導認定を受ける者は、(1)に準じて研究報告を作成し、提出すること。なお、研究指導認定を受けた者は当該年度末に研究指導認定退学することになるので、「研究指導認定退学願」を提出すること。3年次で研究報告を提出する期間は1, 2年次とは異なるので、行事予定表を確認のうえ遺漏のないように提出すること。

#### 5. 資格申請書

上記でいう第1年次および第2年次に相当する2回の研究指導認定を受けたものは、第2年次研究指導認定を受けた翌年度(第3年次)の7月に、以下の内容を含む「資格申請書」を提出する(分量・体裁・内容については専修ごとの基準により、課程博士論文を実際に完成できるか否か判断できるだけの内容をそなえたものとする)。その際、以下の各項目は必ず含んでいなければならない。

- (1) 論文の進行状況と今後の作業の見通し
- (2) 論文全体の章・節および見出しを含む詳細な目次
- (3) 各章・節の内容についての要旨

本申請書提出後、指導委員会(指導教員3名に、必要があれば他の教員を加える)による審査をおこない、承認されれば「博士論文提出資格」を与える。「博士論文提出資格」の有効期限は博士後期課程在学中および研究指導認定退学後3年間である。

「資格申請書」が審査の結果不承認となったとき、あるいは一旦提出し承認を受けた後で論文構想に変更が生じたときには、次回の提出時期に再度承認を求めるものとする。

「資格申請書」の最終提出期限は博士後期課程退学以前の定められた時期(行事予定表に明示)とする。提出されないまま退学した場合、以後の課程博士論文の提出資格は認めない。

## 6. 論文

第3年次の12月に、「博士学位論文出願手続について」等(文学研究科ホームページに掲載)を参照し、誤りのないよう提出すること。

第3年次の課程博士論文の提出期限は、「博士論文提出資格」を有する最終年度12月上旬(行事予定表および掲示で周知)の定められた時期とする。

なお、「博士論文提出資格」を有した後、研究指導認定退学した者は、退学後3年以内に提出すれば課程博士となる。

## 7. 博士後期課程第3年次において論文を完成できない場合

(a) 第3年次7月に「資格申請書」を完成・提出できなかった場合。

(b) 同年次12月に論文を提出できなかった場合。

いずれの場合も、その旨をただちに主任指導教員に届け出るものとする。

上記(a)の場合、「資格申請書」提出の機会は、同年12月(行事予定表に明示)に与えられる。

## 8. 留学計画

博士後期課程の途中で留学するときには、どの大学院の博士課程(ないしそれに相当する水準の教育研究機関)においてどの教員の指導を受けるか、また研究進捗状況と留学の関連につき指導教員と協議し、助言・承認を得るものとする。

留学を終了し帰国する際には、留学期間における研究状況について、留学先の指導教授による説明書(ないしそれに代るもの)をたずさえることが望ましい。

## 9. 審査手続き等

資格申請時及び論文提出時には在学していること(休学期間中は資格申請, 論文提出を認めない。)

## (6) 京都大学文学研究科課程博士論文執筆要綱

(文学研究科共通ガイドライン)

### 1. 使用言語

論文には原則として日本語を用いる。但し、専修によって認められた場合にはその他の言語で書いてもよい。なお、主論文要旨は日本語で書くこと。

### 2. 体裁

縦(横)書きとし、正本1部・副本2部ともに製本のうえ提出する。製本仕上がりの大きさはA4判もしくはB5判とする。なお、審査用以外に手続用(図書館納品分)としてさらに1部必要である。

論文は、京都大学附属図書館において保存するので、堅牢な製本とするよう注意すること。

表紙には論文題目・氏名のみを省略せずに記載する(年号の記載は自由)。複数冊に分けるときは、それぞれの表紙に記入のうえ、全体の通し番号をつける。(背表紙も同様)

### 3. 用紙・論文書式

正本・副本ともにコピー機による複写を提出してもかまわない。

(1) 和文手書きの場合は、縦書きB4判400字詰原稿用紙二つ折(またはB5判200字詰原稿用紙)、ペンまたはボールペン書きとする。横書きの場合は、A4判原稿用紙でもよい。

(2) ワープロ・パソコンまたはタイプライター使用の場合は、A4判またはB5判の上質紙に印刷する(ワープロでの印字には、レーザープリンターの使用が望ましい)。感熱紙など、印字内容の長期保存に適さない紙を用いてはならない。

a. 和文書式については、横書き・縦書きとも、製本仕上がり状態に留意の上、読みやすい仕上がりになるよう定めるものとする([例]横書き毎ページ全角文字30字×25行程度、縦書き毎ページ全角文字50字×15行程度が目安となる)。

b. 欧文の場合、ダブルスペースに印字する。

c. その他の文字の場合、上記のいずれかに準じて定める。

(3) 参考論文・主論文要旨は、上記に準ずる。付図・付表については、必要があれば見やすさを損なわない範囲で用紙・書式の変更を行っても差し支えない。

### 4. 論文の構成

(1) 目次・本文・注の構成とする。より具体的な章立てなどを統一する必要がある場合は、各専修もしくは専攻で定める。参考論文は本項規程の扱いに準じる(ただし、学術誌などに既公刊の論文を参考として提出する場合、強いて体裁を合わせる必要はない)。

(2) 引用した単行本については、初出の個所で、

著者（編集）名・書名・出版地・出版社・出版年・総ページ数

を省略せずに記すこと。未公開博士論文についても、上に準じる。

[例] 尾崎雄二郎 『漢字の年輪』, 東京, 角川書店, 1989年, 335 ページ。

Klaus Röhrborn und Wolfgang Veenker(hrsg.), *Sprachen des Buddhismus in Zentralasien*, Wiesbaden : Otto Harrassowitz, 1983, 141 S.

周一良 『魏晉南北朝史札記』, 北京, 中華書局, 1985年, 總 484 頁。

Richard VanNess Simmons, “The Hangzhou dialect”, Ph. D. thesis, Seattle : University of Washington, 1992, 709 p.

(3) 引用した論文については、初出の個所で、

著者名・論文名・掲載雑誌（論文集）名・巻号・出版年・掲載ページ

を省略せずに記すこと。また、引用ページについてはそのつど指示すること。

会議論文集（Proceedings）についても、上に準じる。

[例] 杉藤美代子「音変化の過程に関する一考察—「四つ仮名」の混同と「ザゼゾーダデド」の混同—」, (国語学会)『国語学』138, 1984年, 20 - 34 ページ。

Hideo Suzuki, “Climatic change and human migration”, *Computational Analyses of Asian & African Languages* No. 22, 1984, pp. 1-7.

(4) 初出以外の引用文献は、どの著作を指示しているかがはっきりわかるように「○○前掲論文」などと記すこと。

(5) 論文末尾に一括して引用文献目録をつけ、本文中では「Suzuki (1984)」のように示すかたちをとってもよい。

(6) 各講座で適当と認める場合は、欧文論文の体裁・欧文書誌記載などについて、たとえば、

*A Manual of Style, The Chicago Manual of Style.*

のような基本的なマニュアルを指定し、統一することも考えられる。

5. 論文の提出期限は厳守し、提出後の誤字・脱字の訂正、プリントアウトの欠損などがないように十分な点検をおこなうこと。

ワープロ・パソコン使用の場合、ハードディスクやフロッピーディスクの異常、または機器の故障を理由とした提出延期や不完全な形での提出は認めない。

乱丁・落丁などがないか十分に確認した上で提出すること。